

かぶせ茶で品質が優れ収益性も高い新品種「きらり31」

利用対象：かぶせ茶を栽培する生産者

新しい茶の有望系統について、三重県のかぶせ茶に準じた栽培・加工を行い評価した結果、「きらり31」（系統名宮崎31号）は、品質が非常に優れ、収益性も高いことが判明しました。

明るく冴えた鮮緑色の色沢



「やぶきた」 「きらり31」

濃緑で澄んだ水色



「やぶきた」 「きらり31」

鮮やかな濃緑色の新芽



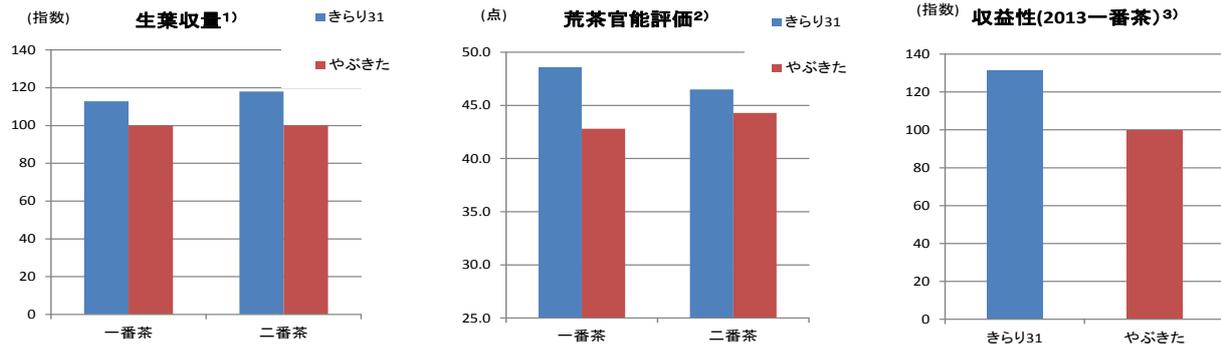
「やぶきた」 「きらり31」

被覆しても鮮やかな緑色



「やぶきた」 「きらり31」

「きらり31」は、「やぶきた」と比べ摘採が2～3日早く、耐寒性、収量性、品質に優れた新品種です。「きらり31」は被覆栽培で、特徴である良好な色沢・水色や高アミノ酸含有量がさらに向上します。被覆方法は、三重県における一般的な被覆方法(遮光率85%、被覆期間14日間)で良いでしょう。



生葉収量、荒茶官能評価および収益性の比較 (2011～2013: 三重県農業研究所茶業研究室)

注 1) 生葉収量は「やぶきた」を100とした指数で表示

2) 荒茶官能評価は外観(形状、色沢)および内質(香気、水色、滋味)の各項目10点、総計50点で評価

3) 収益性 = 荒茶評価額(円/kg) × 荒茶生産量(kg) - 出荷加工経費(円)で、「やぶきた」を100とした指数で表示

お問い合わせ先	茶業研究室	森伸幸	電話 0595-82-3125
	中央普及センター	大谷一哉	電話 0598-42-6707
参考になる資料	三重農研HP: http://www.mate.pref.mie.lg.jp/marc/KenSeika/index.htm		

